５　　奇妙な女房車　 　　　　　　文法　未然形接続の助動詞②

読解　人物の様子をつかむ

三人の武士が祭り（＝物）の見物に行くための相談をしていた。

　「㋐かちより顔をぎて行くべきにはあらず。物はきはめて見ⓐまほし。いかがすべき」と嘆きけるに、一人がいはく、「が車を借りて、それに乗りて見ⓑむ」と。また一人がいはく、「乗り知らぬ車に乗りて、殿ばらにあひ奉りて、引き落として蹴ⓒらるや、㋑由無き死にをや①せむずらむ」と。いま一人がいはく、「のやうにて見むはいかに」と。いま二人の者、「この義よかりなⓓむ」といひて、かくいふ大徳の車、既に借り持て来ぬ。を垂れて、三人袖も出ださずして乗りぬれば、心にくき女車になりぬ。

　さてざまにらせて行く程に、いまだ車にも乗らざりける者どもにてひぬれば、をも落としてけり。牛のにて、早く引きつつ行けば、横なばりたるどもにて、「いたくな早めそ」といひ行けば、同じく遣り続けて行く車ども、へなるども、これを聞きて怪しびて、「この女房車の、いかなる人の乗りたるにかあらむ。けはひ大きにて男音なり」と、すべて②心得ずぞ覚えける。

* 語注

大徳＝僧侶。

殿ばら＝複数の貴人や男性に対する敬称。

女車＝女房が外出時に乗る牛車。簾のわきや下から美麗な着衣のやを出していた。

紫野＝現在の京都市北区辺りの地名。

横なばりたる音＝なまっている声。

【原文】

　「かちより顔を塞ぎて行くべきにはあらず。物はきはめて見まほし。いかがすべき」と嘆きけるに、一人がいはく、「某大徳が車を借りて、それに乗りて見む」と。また一人がいはく、「乗り知らぬ車に乗りて、殿ばらにあひ奉りて、引き落として蹴らるや、由無き死にをやせむずらむ」と。いま一人がいはく、「女車のやうにて見むはいかに」と。いま二人の者、「この義よかりなむ」といひて、かくいふ大徳の車、既に借り持て来ぬ。下簾を垂れて、三人袖も出ださずして乗りぬれば、心にくき女車になりぬ。

　さて紫野ざまに遣らせて行く程に、いまだ車にも乗らざりける者どもにて酔ひぬれば、烏帽子をも落としてけり。牛の一物にて、早く引きつつ行けば、横なばりたる音どもにて、「いたくな早めそ」といひ行けば、同じく遣り続けて行く車ども、後へなる雑色ども、これを聞きて怪しびて、「この女房車の、いかなる人の乗りたるにかあらむ。音けはひ大きにて男音なり」と、すべて心得ずぞ覚えける。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

賀茂祭りの行列を見物に行くために、〔　　〕を借りて〔　　　〕が乗る車のようにした。ところが、〔　　　　〕を落としてしまうほど、酔ってしまった。〔　　〕に叫ぶ三人の声を聞き、周囲の人々は怪しんだ。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ（終止形でよい）。〈４点×２〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ〜ⓓの文法的意味を答えよ。〈２点×４〉

ⓐ〔　　　　　　　　　　〕　ⓑ〔　　　　　　　　　　〕

ⓒ〔　　　　　　　　　　〕　ⓓ〔　　　　　　　　　　〕

問四　チェック問題［未然形接続の助動詞②］

　次の傍線部の助動詞の文法的意味を選べ。〈１点×４〉

１　今日は、都のみぞ思ひやらるる。　　　　　　　　　　 （土佐日記）

２　心あらむ友もがな。　　　　　　　　　　　　　　　　　 （徒然草）

３　などかくは急ぎたまふ。花を見てこそ帰りたまはめ。　 （宇津保物語）

４　雨降りなどすれば、恐ろしくてもられず。　　　　 （更級日記）

ア　受身　　イ　尊敬　　ウ　可能　　エ　自発

オ　意志　　カ　推量　　キ　勧誘　　ク　婉曲

１〔　　　〕　２〔　　　〕　３〔　　　〕　４〔　　　〕

問五　傍線部①を単語に分けよ。〈４点〉

せ　　　む　　　ず　　　ら　　　む

問六　傍線部②とあるが、ここではどういうことか。次の　　　にあてはまる言葉を、それぞれ二十字以内で答えよ。〈７点×２〉

周囲の人々が　　１　　ことに対して、　　２　　と怪しんでいるということ。

１〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

２〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七　男たちの説明として適当なものを二つ選べ。〈６点×２〉

ア　過去に貴族たちに恥をかかされたことを思い出し、大徳から車を借りることをためらっている。

イ　誰が乗っているのかわからないようにするため、女車のようにして見物に行くことにした。

ウ　貴族としての風流な心を持っているので、本来の作法を無視した独自性のある車に仕立てた。

エ　車に乗り慣れていないので、烏帽子を落としてしまうほどあわてふためいてしまった。

オ　すっかり車に酔ってしまい、少しでも早く目的地に着くために必死で牛を追いたてた。

〔　　　　　　〕

【解答】

問一　車／女房／烏帽子／牛

問二　㋐＝徒歩で　㋑＝つまらない・無駄だ〈４点×２〉

問三　ⓐ＝願望（希望）　ⓑ＝意志（勧誘）　ⓒ＝受身　ⓓ＝推量〈２点×４〉

問四　１＝エ　２＝ク　３＝キ　４＝ウ〈１点×４〉

問五　せ／むず／らむ〈４点〉

問六　１＝女房の車から男のような大きな声がする（18字）

　　　２＝乗っている人の正体がわからない（15字）〈７点×２〉

問七　イ・エ〈６点×２〉

【現代語訳】

「徒歩で顔を隠して行くわけにはいかない。賀茂祭りは非常に見たい。どうしたらよいだろうか」と嘆いたところ、一人が言うことには、「某大徳の車を借りて、それに乗って見物しよう」と。もう一人が言うことには、「乗り慣れない車に乗って、（途中、）貴族たちに出会い申し上げて、（車から）引き落とされて蹴られるなど、つまらない死に方をするのだろうか」と。もう一人が言うことには、「女車のようにして見物するようなことはいかがであろうか」と。（すると）ほかの二人の者が、「この提案が確かによいだろう」と言って、このように話す大徳の車を、すぐに借りて持ってきた。下簾を降ろして、三人の武士は袖も（外に）出さないで乗ったので、不審な女車になってしまった。

　そうして紫野の方角に（車を）進ませていくうちに、まだ車に乗ったことのない者たちであって（三人とも車に）酔ってしまったので、烏帽子をも落としてしまった。牛は名代の逸物で、ぐいぐい引きながら行くので、（三人は）なまっている声で、「そんなに早くやるな」と言って行くと、同じようにあとに続いていく車どもや、後ろのほうにいる下人どもも、これを聞いて怪しんで、「この女房車は、どのような人が乗っているのだろうか。声の調子は大声で男の声である」と、まったくわからなく思われた。

【補充問題】（＊行数は本書に対応）

問１　①「乗り知ら【ず】車」（３行目）・②「いまだ車にも乗ら【ず】ける者ども」（７行目）の助動詞「ず」を適当な形に活用させよ。

問２　「女車のやうにて見むはいかに」（４行目）とあるが、「女車のやうに」するのはなぜか。十五字以内で答えよ。

【補充問題解答】

問１　①ぬ　②ざり

問２　自分たちの正体を隠すため。（13字）